

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行NO	NO・65	報告者	井上 弘二郎
年月日	2009年07月19日(日・曇り時々小雨)	2万5千	霧ヶ峰
山名	信州、霧ヶ峰・車山(1925m)		
体力度=3・普通 技術度=3・普通 藪漕=無し 道標=ある トイレ=登山口なし 展望度=霧のため少し 三角点=二等 点名=車沢			
古典ルート観音沢からニッコウキスゲを求めて			
コース とタイム	三島本町4:45-六反田三信前4:50-下土狩駅4:55-農協5:00- なめり駅5:10-水窪交差点5:15-裾野市役所5:20-文化センター前 5:30-御殿場・神場南交差点上5:30-河口湖-御坂IC-岡谷IC-観 音沢登山口8:45-発8:55-観音沢-屏風岩10:20-昼食(ヒュッテ みさやま前)11:53~12:55-車山乗越14:10-車山14:40- 車山駐車場15:00-駐車場発15:30-諏訪IC-長泉20:30		
標高差	上り 観音沢登山口約1100m~車山1925m=約825m 下り 車山1925m~車山肩約1800m=約125m		
参加者	A隊:CL後藤隆徳、矢田あきよし、矢田博子、大庭雅子、山本みどり B隊:SL伊藤従人、伊藤陽子、杉山友紀江、間野和子、間野信博 C隊:SL植野茂利、芹澤圭子、勝田勝子、天野和子 D隊:SL村上充彦、村上美恵子、鈴木恵美子、増田吉信 E隊:SL原田伸一郎、石和加代子、峰田光江、河合純子、大川章子 F隊:SL井上弘二郎、増田真理子、松本勝子、広瀬久美子、土屋ひとみ=28 名		

2009年度のさわやかハイキングの第2回目である。前回の天城では、さわやかハイクにしてはめずらしく雨の山行であったが、なんと今回も雨。今までうまく行き過ぎていたツケがまわってきたのだろうか。

車中、諏訪神社下社の前を通過し、御神木を落とす坂を大勢の人が草刈をしているのを見た。真下から見ると、絶壁に人がたくさんくっついていて作業しているようだった。少し通りすぎて坂を見ると斜度はおよそ45度だった。いずれにしても真っ逆さまだ。その坂の上にとると丸太が準備してあり、今にも落としそうな感じ。テレビでしか見たことのない場所を直に見ることができてうれしい。



やがて登り口に着き、バスを降りて身支度を行う。少し雨が降っている。傘、カッ

パ、スパッツ、ザックカバーなど各々準備をする。私は、いつもの格好に折りたたみ傘ひとつである。2週間後の剣岳の歩荷訓練のためザックは19kgにしてきた。A~Fの6班の点呼を終えると早速歩き始めた。今日は28人乗りのバスにきっちり28人乗ってきた。いつもと違う人数の多さだ。観音沢沿いに歩く。先頭から最後まできっちりと列を作り歩く。これもちょっとめずらしい。梅雨のため水量が多く、多少濁っている。ザーッという水音は心地よく心を癒してくれる。流れは、小さな滝を連続して形成して、とてもいい絵になる。

何度か沢を渡る。丸木の橋はつるつるぬるぬると滑りそうなので、橋の下の岩を使い、後藤さんが手を貸してひっぱり上げて渡る。途中、村上さんが左足を川につっこみ、腕に長い擦り傷を負ってしまった。とても痛そうだった。しんがりの私には、当然、後藤さんの補助はない。

途中、屏風岩に出会う。真上を見上げないと岩の上のほうが見えないくらいでかい。岩の中腹に空洞があり、人型をした何かが見える。観音像らしい。これが観音沢の由来か。



観音沢上部



金盃草

八島キャンプ場を指す標識があり、そちらに向かう。なだらかな道をだいぶん歩いたが、地図にあるビーナスラインの道路になかなかでない。同じグループの土屋さんが疲れてきて、休みながら歩き遅れ始めた。ふと前方を見ると伊藤さんがこちらに大声で何か言っている。どうやら道を間違えたようだ。戻りで約10分かかったので、登り分を入れると約30分の登り返しになる。曇っていたため、東へ向かっていると思っていたのが、実は西であることに全く気付かなかった。分岐点でありながら、キャンプ場方向しか表示していないので、間違いやすい。

本来の道に戻ると、すぐにビーナスラインの道路橋が現れた。その下をくぐると、周囲に花が咲き始めた。小川を渡ると、そこがヒュッテ・みさやま（御射山）である。

車山で昼食の予定を変更して、ここで1時間の昼食と休憩にした。

ここからの花がすごい。ニッコウキスゲが一本、また一本と姿を現す。この花の色はやわらかい黄色で、マンゴープリンを想像させる。実においしそうな色をした花だ。この花が、だんだん増えてくる。霧が一瞬晴れると、遠くまでニッコウキスゲが一面に咲いているのが見えた。そしてまた、霧に隠れる。その一瞬一瞬に大喜びする。

その中で、シシウドがグロテスクな茎を地面と垂直にもたげ、そのてっぺんでぱつと打ち上げ花火のように白い花を広げている。なかなかよい。車山に近づくにつれ、ニッコウキスゲの群生は歩道の近くに広がるようになり、カメラを持つ人は、霧の晴れ間を狙って一生懸命写真を撮っている。

一番良かったのは、車山へ上がる分岐のところだ。車山頂上を目指し歩いていきながら、時々振り返ると、マンゴープリンが一面に、いやニッコウキスゲが一面に咲いているのが見える。これもやがて霧に隠れていく。うーん、やはり霧ヶ峰だ。小さい頃から、エアコンのコマーシャルで名前を知っていたが、その名前の土地が本当にあるとは知らなかった。



日光黄管



手形千鳥

頂上も、やはり霧の中。気象観測ドームが霧の中で不気味に写り、巨大ロボットのような。三角点を各々タッチして、駐車場側へ下りる。こちら側は、普段着の人がしんどそうに上がってくる。想像していたよりきついのだろう。駐車場側の斜面もマンゴー、いや、ニッコウキスゲの群生である。大勢が歩くため道がくぼんでいるのか、黄色の花は目線の高さに広がる。山の北面では、一株に花は一輪ぐらいしか咲いていないが、標高が下がるにつれ、一株で2つも3つも咲いているので、黄色の密度が高い。しかし、だんだん飽きてきた。とどめは、駐車場近くの花畑だ。

密集度が不自然に高い。すでに腹いっぱいマンゴープリンを食べてきた感覚に陥っている。興味は失せていた。その時、一瞬湿原の方面の霧が全てなくなり、なだらかにうねる雄大な山の姿が現れた。すばらしい。ヒュッテ・みさやまの屋根も見える。歩いてきたなだらかな地形が一望できた。

雨が強くなってきたところで、バスに乗り込む。今回は、ゆっくり歩いたので登りのしんどさはなかった。ただ、19kg をかついだ肩だけが痛い。

観察した主な花

姥百合、延齡草（花は終わり）、黄花山苧環、金鳳花、野花菖蒲、日光黄菅、手形千鳥、擬宝珠（ギボウシ）、伊吹虎ノ尾、下野草、柳蘭、白山風露、高嶺郡内風露、猪独活（シシウド）、鶉花（ヒヨドリバナ）、粘芒蘭（ネバリノギラン）、薄雪草、金梅草

